

(特) J G K埼玉グリーンプラに対する質疑応答・講評

【質疑応答】

(粉川委員)

2,000人の算出根拠について確認したい。

(発表者)

会場に訪れた方は家族連れが多かったこと、ステージイベントの見学者が多かったことを考慮して、アンケートやクイズラリーの数値、受付で配布したシールやトレーの数、ステージイベントの見学者数を元に算出した。

(粉川委員)

成功をアピールする根拠となる参加人数は非常に大切であり、数値の根拠の妥当性をしっかりと説明することが必要である。また、今回の助成を今後どう活かすが団体に問われている。今後の具体的なアクションを知りたい。

(発表者)

生分解性プラスチック、バイオマスプラスチックを普及するため、会員の協力や各プラスチックメーカーとの業務提携を通じて製品化していきたい。

(粉川委員)

団体のWeb上環境フェスタについて紹介しているページを2007年度のものに更新してほしい。

(村重委員)

今後、環境フェスタを続ける予定か知りたい。

(発表者)

続ける予定である。

(村重委員)

さいたま市と上尾市の小中学校だけではなく、全県的に対象を広げ、今後、出前授業を実施して欲しい。

【講評】

(野島委員)

「環境フェスタ」には予想を超える来場者があったという。さいたま市の一部及び上尾市の全小中学校にチラシを配布したことが功を奏したものと推察される。イベントでは、中心テーマである「グリーン・プラスチック」の普及だけでなく、広く環境問題を題材にしたテントやよろず相談のためのテント等を配置したのはよかったと思う。子どもが楽しめるようにクイズラリーと参加賞(小物)の提供を工夫した点も評価できる。

(片桐委員)

「理解と啓蒙」としてイベント開催が重要な手段であることはその通りですがイベント開催自体が主目的とならぬように願いたい。

事業成果のアンケート内容がよく見えませんが、市民の「ゴミ問題・過剰包装等の」思いや意見を汲みとる為の工夫をされて、次のイベント開催や事業のステップアップに繋げていただきたい。

(宮本委員)

環境問題解決のきっかけとして評価したい。2008年につなげる大きなイベントとあわせて学校への出前授業の推進を。

(真下委員)

事業成果を適切にアピールできるよう工夫をすると良いと思う。
お祭りのイベントを日常活動に活かしていけるよう合わせて工夫されることを期待します。